

令和4年度 第1回 磐田市立学校給食運営委員会 会議録

- 1 日 時 令和4年5月25日(水) 午後6時30分から午後7時45分
- 2 場 所 磐田市役所西庁舎 3階 302・303 会議室
- 3 出席者 委 員：12名（1名遅参）
事務局：8名
- 4 傍聴者 なし
- 5 概 要

<事務局>

ただ今から、令和4年度第1回磐田市立学校給食運営委員会を開催いたします。

新規の委員の方々もいらっしゃいますので、私から学校給食運営委員会について、概要を説明させていただきます。

磐田市学校給食条例では、学校給食の適正かつ円滑な運営を図るため、運営委員会を置き「学校給食の運営に関する必要な事項について調査審議する」と規定されております。具体的には、給食回数や給食費の額、納入業者の指定などの協議をお願いしております。委員の定数は15人以内とし、学識経験を有する者、学校医及び学校薬剤師の代表者、PTAの代表者、所轄保健所の職員、校長及び園長の代表者、その他教育委員会が必要と認める者となっております。現在12名の方々に委員をお願いしております。

なお、委員の任期は、令和3年6月1日から令和5年5月31日までの2年間で、役職の交代や人事異動等があった場合の後任の方の任期は前任者の残任期間となっております。

(1) 委嘱状及び辞令書交付

新委員7名への委嘱状及び辞令書交付（任期は令和5年5月31日まで）

（出席委員の紹介）

(2) 教育長あいさつ

皆さんこんばんは。本日はお忙しい中、御出席を賜り誠にありがとうございます。コロナとの闘いが2年半続いていますが、その中で学校や園が、本当によく踏ん張って防いでくれたと思います。いろんなところで子供から感染するのではなどの話がありましたが、1万5,000人以上の子供がきっちりとやり切り、それなりの実績を出せたことが、本当にありがたかったと思います。それと同時に、保護者の皆様、医療関係の皆様、本当に御尽力・御協力をいただいて、今があると思います。現在、次の段階へ入ってきていますけど、その中で、通常の生活を確実に戻してあげることが大人の一つの大きな役目である感じております。

さらに、子供たちを取り巻く状況というのは、大変な状況があるなと思います。それは、ロシアによるウクライナ侵攻です。この地球上で戦争が起こっているという事実は、子供たちの心も蝕まれますし、この子供たち自身の体力も疲弊されます。ある面では、

コロナストレス、それから戦争ストレス、そういうものが子供たちのところに、降りかかっているんじゃないかなというふうに思います。

それともう一つ。コロナ、またはウクライナの状況は、いろんなものの物価上昇に繋がっている。特に油類、小麦等ですね。これは私たちが、昨年度、11月の時点で予想していたよりも、はるかに上回っている。従いまして、今年度の学校給食運営委員会は、ある面では、特に給食費に関して、歴史的な転換、判断を迫られる内容になると私は考えています。新しい生活様式で、学校給食は、何でやるんだといういろいろ書かれている文章がありますけれども、学校給食は、教育活動の一環として児童生徒等の基本的な生活習慣の形成や、社会性を身につけさせ、豊かな人間関係の育成を目的に実施する。食に関する教育がますます重要になり、いろんな人間関係そのものを、食を通してつくっていくということですね。だけど最近「黙食」です。黙食の中でもかかわりをつくっていくことが、学校や園の一つの大きな役割であると考えています。私は歴史的な1年になると考えておりますので、皆様方、是非ともいろいろ、御協力いただけるとありがたいと思います。本日は、本当にお忙しい中ありがとうございます。

(3) 運営委員会正副会長選任

委員の互選により会長には芦川和美委員、副会長には鈴木由佳子委員を選出した。

(4) 会長あいさつ

会長職ご承認いただきまして誠にありがとうございます。先ほど教育長もおっしゃったように本当にこの委員会は今年大転換のときが来ています。スーパーに行っても、価格の高騰がよく分かります、でも、今、栄養士の皆さんもそうですけど、一生懸命に質を保つように献立を考えていただいています。また、センターの運営も本当にシビアなところを削って、一生懸命子供たちのためにメニューを考えていただいているという努力やこの感謝の気持ちを学校に戻って皆さんにお伝えいただきたいなと思います。学校給食というのは社会の交流の場としても大事なものであって、今コロナになって黙食になっていますけれど、本当に早くワイワイが言いながら、交流出来たらなと思います。みんなで美味しいものを、一緒にものを食べて育っていく、すごく大事なことだと思います。その中でもこの磐田市の給食は出汁からしっかりとって、子供たちのために、おいしい給食をつくっていただいているので、そういうところも皆さんで共有しながら、子供たちにどんな給食を提案できるかというのをしっかりとここで議論しながら、皆さんのお知恵をかりながら、給食の運営をしていただきたいなと思います。私も3月頃に少し食べられない時期があって、食べないと、どんどん思考が悪くなっていくことを実感しました。やはり食べると元気になりますし、踏ん張っていける、食って大事だということを実感した3月だったので、特にこの1年、しっかりと皆さんとお話ししていきたいなと思いますので、忌憚のない御意見、貴重な御意見いただいて会を進めていきたいなと思います。1年間どうぞよろしく願いいたします。

(5) 副会長あいさつ

副会長を務めさせていただきます、豊岡中学校の鈴木です。

育ち盛りの子供たちが、学校で一番楽しみなのは、本当は勉強と言ってもらいたいのですが、やっぱり給食じゃないかなというふうに思っています。本当に一番の楽しみで、成長の一番基盤となる食というところについて一緒に考えることが出来ますことを非常にうれしく思います。皆さんと一緒に意見を出し合って、子供たちの成長のために、できることは何でもしていきたいなと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

(6) 学校給食の概要説明

<事務局>

それでは、資料の1ページから7ページ、「磐田市の学校給食の概要」について説明をさせていただきます。

学校給食は、明治22年に山形県で始まったとされ、130年を超える歴史があります。以前は児童生徒の栄養確保が主眼であったようですが、現在では、教育長のあいさつにもありましたように、「教育活動の一環」として、児童生徒等に基本的な生活習慣の形成や社会性を身につけさせ、豊かな人間関係の育成を目的として実施をしております。

まず、現在の磐田市における「学校給食の実施状況」ですが、1ページから3ページにかけて記載のとおり、3箇所の学校給食センター、1箇所の共同調理場、15箇所の学校単独調理場のほか、認定こども園調理場3園で、それぞれ実施をしています。各学校給食センター、共同調理場及び単独調理場等で給食を提供している対象の園や学校については、資料に記載のとおりです。

次の表は、こども園・幼稚園・小学校・中学校別の数と対象人数を示したものです。

次に、「3 学校給食センターの施設概要」ですが、市内3箇所の学校給食センターについて記載をしてあります。大原センターは平成20年に開設をし、最大5,000食の調理能力と、アレルギー対応食の専用施設を備えています。また、豊田センターは平成10年、豊岡センターは平成11年に開設をし、豊田が3,500食、豊岡が2,500食の調理能力を備えています。

参考に、令和3年4月に開設した、ながふじ学府共同調理場は、1,700食の調理能力があり、大原センターと同様のアレルギー対応食の専用施設を備えております。

続きまして、4ページをご覧ください。「4 委託の状況」ですが、現在本市では、学校給食の調理・洗浄、配送業務等について、3箇所の学校給食センター、1箇所の共同調理場及び5箇所の小中学校、3箇所のこども園において民間委託を実施しております。

また、資料に記載はありませんが、今年度、新たに2学期から、磐田中部小学校の民間委託が始まることと決定しており、大原学校給食センター、磐田北小学校、東部小学校を受託している、株式会社ジーエスエフに委託することとなっています。現在、9月からの円滑な業務開始に向け、学校、受託事業者等、運営の詳細について協議、調整を図っているところです。

続きまして、「5 学校給食費と年間実施回数」です。

表は「学校給食費と年間実施回数」を示したもので、給食費につきましては、記載のとおり学校給食法において「給食に係る施設費や人件費などは市が負担し、食材等の経費は保護者が負担する」と規定されております。

幼稚園・こども園を除く全ての小・中学校においては、平成26年度に消費税の引き上げなどに伴う給食費の改定後、平成29年度まで、給食費及び給食回数を「年間180回」に統一し実施して参りました。平成30年度からは、8月末からの2学期始業に合わせ、給食実施回数を上限としまして、小学校は「年間183回」、中学校は「年間182回」に増やしました。この回数は上限ですので、学校運営の状況に合わせて年間180回以上から上限回数までを選択出来るものとしております。

また、表の中の、小・中学校の給食費の月額につきましても、給食回数の変更に伴い、各地区、年間180回から上限回数までの月額を表示しております。月額欄を御覧いただきますと、小学校では、福田・豊田地区の4,110円から4,180円。磐田・竜洋・豊岡地区の4,420円から4,500円。中学校では、磐田・福田・豊田地区の4,860円から4,920円。竜洋・豊岡地区の5,240円から5,300円と違いがあります。これは主食のうち、米

飯の実施形態が異なることによるもので、大原と豊田の学校給食センター、ながふじ学府共同調理場、竜洋中学校は炊飯設備があるため、自前で調理する自前炊飯、磐田と竜洋地区の小学校単独調理場、豊岡学校給食センターは、炊飯設備がないため外部委託する委託炊飯と、それぞれ異なっていることによるものです。なお、竜洋中学校については、令和2年度から、自前炊飯設備を導入したことから、保護者負担金については、委託米飯による設定としています。また、豊岡地区については、令和3年度まで自宅からご飯を持参する持参米飯でしたが、暑い時期の衛生管理面の心配などがあったことから、令和4年度から委託炊飯方式に見直しを行いました。

また、幼稚園の給食費につきましては、平成27年4月より「子ども・子育て支援法」が施行され、幼稚園と保育園、それぞれの機能が付加された「幼保連携型認定こども園」への移行等、大きく制度が変わったことなどから、資料に記載のとおり、1号認定である幼稚園児については、3歳児が給食回数150回の月額3,000円、4歳、5歳児が給食回数160回の月額2,900円で、市内全て統一をしております。

次の表は「学校給食関係職員数」を示したものになります。

次に、「7 地産地消の取り組み」についてですが、本市では、食育の一環として、地場産品を積極的に活用すること及び、安全・安心で生産者の顔が見える食材の活用などを目的に、学校給食において地産地消を進めております。

J Aなど関係機関と連携し、市内の生産者が栽培した青梗菜などの学校給食用農産物の納入や、市内産の海老芋やいちご、お茶を使用した加工品を給食用の食材として活用するなどしております。

また、(株)アグリカルチャー磐田が先進的な技術を用いて栽培したパプリカなどを使用した献立を給食で提供し、特に平成30年度からは、単独調理場で学区内にて栽培された新鮮な野菜を直接農家から仕入れるなどの取り組みをはじめ、地産地消の更なる推進に努めております。

なお、令和3年度の地産地消率は20.2%と、前年度の19.0%と比較をしまして1.2ポイントの増となりました。これは品目ベースによる数値となります。

次に、「8 安全・安心な学校給食提供の取り組み」についてですが、本市では、子どもたちに安全で安心な学校給食を提供するため、各種の取り組みを実施しております。

まず、(1)のとおり、給食に使用する食材につきましては、各センター、単独調理場とも概ね2ヶ月に一度「物資委員会」を開催し、適正な食材の確保や献立の統一を図っております。校長や保護者の代表の方にも委員として審査に参加をいただき、物資選定や業者選定等を行っております、より充実させていく予定でおります。

次に、(2)の「給食用食材料の検査」についてですが、全給食施設において選定した食材費及び加工品につきましては、1学期に1回、2食材を検査機関にて生菌検査、大腸菌の数、黄色ブドウ球菌の検査を実施しまして、結果を調理業務に生かしております。

また、平成24年度からは、給食用食材の放射性物質検査を実施しております。野菜やきのこ類等について、調理前の食材を取り分け、市内の業者に委託をし、給食提供前に検査を実施しております。なお、これまで放射性物質が検出されたことは一度もなく、検査結果については、市のホームページにて公表しております。

次に、(3)の「学校給食関係職員の健康管理」についてですが、調理職員だけでなく、栄養士、運搬員、用務員など給食に携わる全ての職員について、月2回、保菌検査を実施するとともに、昨今、その感染が話題に上ることが多いノロウイルス菌についても、今年度は例年発症が多く見られる10月から3月の間に6回の検査の計画をしており、感染症の早期発見にこれからも努めて参ります。また、調理員については、調理に入る前の健康チェックを毎日欠かさず実施し、日常生活においても、生卵や生の二枚貝は食べ

ないなど、自己の健康管理を徹底しております。

次に、7ページ、(4)の「食物アレルギー除去食の実施」についてですが、本市では、平成20年11月から大原学校給食センターにおいて食物アレルギー対応食の提供を行っており、記載にありますように順次拡大をして参りました。平成30年9月からは、単独調理場及び豊田・豊岡学校給食センターと同様に、幼稚園・こども園においても鶏卵及びうずら卵の除去を行っております。4月から運営を開始しましたながふじ学府共同調理場は、大原センターと同様に食物アレルギー対応食を提供しております。

なお、アレルギー対応につきましては、対応の流れや基本方針を示した「磐田市アレルギー対応の手引き」に基づき、市として統一した対応を進めているところです。

次に、(5)の「異物混入の防止」ですが、異物は食材料製造に由来するものがほとんどですが、調理段階で混入する場合があります。このため、野菜の洗浄強化や厨房機器の調理開始前点検など未然に防止する取り組みのほか、発生した場合の対応などを示した「対応マニュアル」に基づき、統一した対応を進めております。

磐田市の学校給食の概要についての説明は以上になります。よろしくお願いいたします。

<会 長>

説明ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、ご質問・ご意見等ありましたらよろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。

ご質問等ないようですので打ち切ります。

(7) 議 題

議案第1号 令和4年度 磐田市立小学校・中学校の給食費について

<会 長>

次に、次第の5、議事に移ります。

それでは、「議案第1号 令和4年度 磐田市立小学校・中学校の給食費について」を議題とします。事務局から説明をよろしくお願いいたします。

<事務局>

それでは、議案第1号につきまして説明をさせていただきます。

こちらの趣旨としましては、物価高騰が続く中においても、保護者の皆様に新たな負担を求めることなく、子供たちに栄養バランスが整った質を確保した給食を提供するため、1食単価の増額をいたたく提案するものでございます。

裏面を御覧ください。表の中央は、令和4年度の4月から6月までの小中学校の給食費の額です。その右側が、7月から3月までの小・中学校の給食費の額になります。増額の理由は、長引くコロナ禍や世界的な情勢の不安などの要因により、食材料費が高騰する中、本市の学校給食は国が定める基準を満たした献立の提供が非常に難しくなっています。このため臨時措置として、今年度、国の交付金を活用し、保護者の皆様に新たな負担を求めることなく、7月の給食から1食単価を増額することを計画しています。これにより、栄養の質を確保し、また、果物やデザートを提供回数を増やすような給食を提供してまいります。1食当たりの増額幅の根拠としては、新型コロナウイルスの感染者が、国内で確認され始めた令和2年度と、現状の市場価格を代表的な献立に照らし合わせて換算・比較したところ、112%から115%の価格上昇が確認されました。質を確保した給食の提供には、現在の1食単価の15%程度が不足することから、現在のそれぞれの1食単価に15%相当分を上乗せした金額にすることとしました。なお、表記載の月額については、学校により給食実施の日数等が異なるため、目安の金額と御理解くださ

い。また、表の規定にかかわらず、7月から3月までの保護者の皆様が負担する給食費は、4月から6月の月額を適用するためこれまでと同様としますが、教職員や調理員など、その他給食を食べる方については、表に記載の1食単価を、7月分の給食費から負担をいただく予定です。

説明は以上です。よろしくお願いいたします。

<会 長>

説明ありがとうございました。ただ今の議案説明につきまして、ご質問・ご意見等ありましたら、よろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。

ご質問等ないようですので打ち切ります。本件は承認する事にご異議ございませんか。

【異議なし】

<会 長>

ご異議もないようですので、議案第1号を承認する事に決定しました、ありがとうございます。

<会 長>

次に、次第の6、報告に移ります。

それでは、「報告第1号 令和4年度学校給食費等予算について」を議題とします。事務局の説明をお願いいたします。

<事務局>

それでは、報告第1号について、説明をさせていただきます。

先に、学校給食分を説明した後に、幼稚園給食分を幼稚園保育園課から説明をいたします。

それでは資料の10ページをご覧ください。令和4年度学校給食費等関係予算になります。

1の「学校給食」ですが、3箇所の学校給食センター、1箇所の共同調理場、15箇所の単独調理場における小・中学校合わせて32校に係る予算です。歳入の「学校給食費保護者負担金」は、7億3,285万円、歳出の食材料費は、7億3,745万7,000円を計上しました。歳出の食材料費には、保存食用食材料費など860万7,000円を計上しているため、歳入との差額が生じています。

以上、学校給食についての説明とさせていただきます。

続きまして、幼稚園給食について説明をさせていただきます。表の2、幼稚園給食費ですけれども、まず、豊田・豊岡2か所の学校給食センター、それと、1か所の共同調理場、そして8か所の単独調理場でのこども園、幼稚園、合わせて14園に係る予算として、歳入の幼稚園給食保護者負担金を3,830万6,000円、歳出の食材料費を5,991万6,000円計上しております。なお、表の中で単独調理場（園）と記載した3園につきましては、こちらは業務委託をしております、給食業務委託料の中で食材費用が賄われております。この中でも業者との協議の中で3,860万円を食材費と見込んで委託料の中に包括して支払いをしている状況となります。説明は以上です。よろしくお願いいたします。

<会 長>

説明ありがとうございました。ただいまの報告につきまして、ご質問・ご意見等ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

ご質問もないようですので打ち切ります。本件は了承する事にご異議ございませんか。

【異議なし】

<会 長>

ご異議もないようですので、報告第1号を了承する事に決定いたしました。

<会 長>

次第の7、協議事項に移ります。「磐田市立小学校中学校の給食費について」を議題といたします。事務局の説明をお願いします。

<事務局>

協議事項について説明をいたします。昨年度の学校給食運営委員会において、学校給食費の改定について検討をいただきました。協議いただいた結果、この中の状況下、経済的に厳しい世帯もあると判断したことから、保護者の皆さんに負担いただく学校給食費の改定は見送ることとしました。しかし、コロナ禍の影響や、世界情勢の影響により、物価高騰が続くなど、子供たちに質を維持した給食を提供していくことが非常に厳しい現状であることには変わりないことから、今年度の運営委員会では、令和5年度の改定に向けて、継続して検討していくことをお願いしたいと考えております。このため、本日は、改めて、現状や課題を踏まえた改定に向けての取り組み等について、説明をさせていただきます。

初めに、市の現状についてです。(1)は、令和2年度の決算における事業費全体から見た1食当たりの単価です。全体事業費については、食材料費のほか、人件費や光熱水費、設備の維持など管理運営に必要な経費を含んでいます。保護者の皆様からいただいている学校給食費は、法令に基づいて、全てご飯やパン、おかずや牛乳といった食材料費に使用しています。そのほかの光熱水費や消耗品費、設備の維持管理費用などは、全て市が負担をしています。

(2)は、現在の1食当たりの保護者負担金額になります。次の(3)は、本市の学校給食の特徴になります。献立を工夫していること、丁寧な調理をしていること、食べ残しが少ないこと、こういったことが本市の特徴のいい面と考えております。また、各センター、単独調理場、共同調理場と多様な方法により給食を提供している点も特色の一つと捉えているところです。

次の喫緊の課題については、大きく2点あります。1点目は、食材費が年々上昇する中で、学校給食摂取基準を満たす給食の提供が困難になっている点です。資料のほうに事例を書かせていただきましたけども、給食献立は、栄養士が作成する献立プランに基づき、各学校で作成していますが、食材料費の上昇等の影響で、特に単独調理場設置校では、現在の一食単価で、プランどおりの食材による献立がなかなか立てられていません。いろいろなやりくりの中で、栄養価の影響が少ない安価な食材への変更、例えば、鶏もも肉を鶏むね肉にする、キャベツをもやしにするといった工夫のほか、果物やデザートを提供回数を減らすなどして、献立プランから平均して、1食当たり20円程度削減した献立としています。こうした努力や工夫も限界に近づいています。こうした状況であることを御理解ください。

2点目は、保護者に対する学校給食の現状の周知が十分でないことがあります。

裏面をお願いします。本市の特徴や課題を踏まえて、学校給食課として検討していることが、3の今後の取組み(案)になります。よりよい学校給食の提供を目指し、大きく三つの柱、学校給食に対する理解促進に向けて、給食の質、楽しさの向上に向けて、SDGsの達成に向けて、に係る取組みをできるものから行っていきたいと考えています。

最後に4、保護者負担金の改定に向けた考え方ですが、令和3年度から、広報活動を強化しております。ホームページの内容を拡充したほか、学校給食のInstagramを開設しました。また、学校を訪問し、PTA役員の方々などに、学校給食を取り巻く現状を伝えております。こうしたことを踏まえて、令和5年度4月の改定を目指して、取り組んでいきたいと考えています。あと参考に昨年11月と12月に開催をしました本運営委員会での学校給食に係る部分の会議録をお送りした資料に中に入れさせていただきました。説明は以上になります。よろしくをお願いします

<会 長>

ただいまの説明につきまして、御質問・御意見等ありましたらお願いいたします。今も説明をいただきましたが、事前に送っていただいた資料でこんなことを聞いてみたいとか、何でも結構ですので皆さんから一言ご意見をいただきたいと思っております。

<委 員>

今、やはり物価の上昇というのは、各家庭でも現実的な問題になっていると思います。やはり、その中で学校給食が保護者の負担というのは、子供の栄養価を確保するためには仕方がないと思っている御家庭もあれば、他人事のように、学校や市が何とかしてくれるのではないかと考える方も中にはあるのではないかと考えています。どうしても犠牲になるのは子供たちではないかと考えています。皆さんがお話ししてくださっているように、子供の体づくりは、心の教育にもなっていると思いますので、できるだけ子供たちの、今黙食というところで、なかなか厳しいですけれども、各家庭でもどうしても孤食というものが当たり前のようになっている時代になっておりますので、やはり私たち食育で「共食」というものをすごく取り上げています。このワードを議題に出ささせていただくことがとても多いものですから、学校給食というのは、同じものを、同じ感覚で思い描けるといような、心の宝物になるものだと思っておりますので、なかなか難しい課題としてやはり果物の変更になったりとか、グラム数が少なくなったりとか、いろいろと学校栄養士さんのほうで考えていらっしゃると思っておりますけれども、やはり子供たちが給食、先ほど竜洋中学校の代表の方もおっしゃったように、子供が食事ちょっと少ないよとか、多分敏感な子はこういったところに少し感じ取っているのではないかなと思います。できるだけ地場のものを農家さんにも協力していただきながら、栄養価を安定して確保していただければありがたいと思っております。

<委 員>

昨年いろいろ資料を見せていただいた中で、鉄分とカルシウムのことを割とお話しさせていただきました。中学生では貧血検査がありまして、ただ貧血というのは症状にだんだん慣れていって、血液検査してやっと貧血であることに気づいたりということがあります。なかなか中学生の昨年のカルシウムや鉄の充足率が不足気味だったりというようなことを考えると、1年間365日のうちの約180日、お昼御飯できちんと栄養をバランスよく摂れることは、御家庭での食事お母さん方頑張ってもらっしやると思っておりますが、ある意味、非

常にこれはありがたい栄養確保の手段なのかなと思います。そうすると、この物価高っていうことを考えていると、子供たちの栄養を確保するという点では、ある程度前向きに検討して受入れていただく方向がいいと個人的には考えています。以上です。

<委員>

今、事務局から説明がありました流れというのは、保護者の方にオープンにして問題ないわけですね、努力をしているってことを。今年度は、実はもう物価が上がっているのだけれども、4月から6月の費用で行くのだと、7月から、一食単価を上げていくのだけれども、実際は負担を求めているということ、ちょっと流れを示していただければいいのではないかと思います。きっと保護者の方は急に言われるのがやはり1番嫌だと思います、どうせ決まっていたのでしょうか。流れを示してもらえば、その中に先ほどの喫緊の課題の中で、フライを40グラムから30グラムにとか、キャベツをもやしにする努力をされているわけですし、そこら辺をもうしっかりと示しているのかもしれませんが、きっと、先ほど先生のお話もありましたけれども、保護者の方も御理解いただけるような気がします。流れを本当にオープンにしたほうがいいと思いますけれども、ただ読んでない人もいますので保護者の中では、そういった人が結構何か言ったりすることがあるので、しっかりと読んでいただくことが必要というふうに思います。以上です。

<委員>

専門的なことや理屈的なことはちょっと分からないですけれども、園長先生にこの資料ちょっと分からない部分があると御相談したら、純粹に給食費についてどう思っていますかと聞かれ、私は、子供が本当に自宅での食事を全然とってくれない、もう野菜見るだけで食べないっていう状態なのに、幼稚園の給食ではすごく頑張っておかわりをしているということを聞くと、そこは金額とかの問題ではなくて、彼らの毎日の健康のための積み重ねという部分で、本当に私の感情論で申し訳ないですけども、子供の健康が優先というところに行きつきました。いろんな御意見はあると思いますし、園で配布してくださる書類、市から出ている書類等は、大体の方が読んでいて問題ないと思いますので、紙面で出していただければ、大いに伝わると思います。私の知る周りの保護者の皆さんは、給食費のことを少し上がった、私の長男が入ってから少し上がっているんですけども、そのことでマイナスの評価をしている方は見受けられておりませんので、前向きに御検討くださればと思います。

<委員>

今回このような場に携わらせていただきまして、市の給食の方たちが大変努力をされていたことを初めて知りました。子供たちも、私自身も、これだけ努力をされている上で、物価上昇もありますので、給食費の値上げについては賛成です。この一連の流れで、保護者の負担をまず増やさないで、市の負担で賄っていただけるという流れも学校単位で、もっとプリントや参観会等で校長先生からもっとこう努力されていることをお話しいただいて、知っていただけたらと思いました。自分の子供たちも、給食のクリスマスデザートを幼稚園の頃から楽しみにしていたのですけれども、ここ何年か無くなってしまったと言い、あと、ケーキをすごく楽しみにしていた子だったので、ゼリーになってしまったことを子供から聞いていました。子供にとって給食というのは本当に楽しみなもので、我が家も、自分の家では、野菜を食べないのですけれども、給食を食べることで、給食の楽しみを知って、野菜も本当におかわりして食べてきたりと、何より楽しみにしていると思います。このような努力をもっとたくさんの人知っていただくためにも、私も学校のほうに持ち

帰って校長先生等にお話ししてみようと思います。ありがとうございました。

<委員>

私個人的には、やはり今物価高ですとか食材料費の高騰って自分でも感じておりますので、給食費が上がるという点につきましては、仕方がないと感じます。それより、給食がなくなってしまうことのほうが、問題があるんじゃないかと思います。私の長男が今年から高校に上がりまして、本当に改めて給食のありがたさというのを痛感しております。栄養価的にもそうですし、家ではつくってあげられない献立メニューなんかも学校で出していただいて、子供たちが給食で今日は魚の料理がおいしかったんだよとか、話してくれたりします。いろんな本当に努力をされて、今これだけのいろいろな献立を、なかなか家庭でつくるといのは難しいものがありますので、給食があるということは、ありがたいと思います。

<委員>

うちは中学校ですけど、1年生の子は多分たくさん食べるからご飯が少ないと感じるのだと思います。2年生はみんなお年頃になってくるので、女の子が食べなくなって、残菜量が増えている。あと、難しい問題ではあると思うんですけど、不登校の子も、2年になると増えるので、同じような給食が来ても、やっぱりどうしても2年生になると残る量も増えるのかなと感じています。うちの子は多いときは牛乳5、6個飲んでくるって言って、事前にいただいた資料にも書いてあるんですけど、残食をなくすっていうところで、うちは小さい頃から体が大きいので、給食全部食べてくれてありがたい、ありがたいと。そんな太ってはいないんですけど、この資料にあったように、やっぱりお友達の子供で、全部食べちゃう。そうすると太りすぎちゃうと。残食をなくすことも大事だと思うんですけど、食べられるから食べると、みんなが食べられないって言った分を結局そういう子供たちが食べて、体が大きくなってしまうのもちょっとどうなのかなっていうところ、太っている子はやっぱり食べたい子供たちだと思います。家だと親にとめられるけど給食ならいっぱい食べられるって言って食べてしまうというのがあるのかなというのと、小学校のとき、あんまり好きじゃないおかずが兄弟共通にあって、それがやっぱり中学校に行っても、あんまり好きじゃないおかずっていうことで、やっぱり残ってしまうと。やっぱりみんながあんまり好きじゃないというものがあります。なので、作っている方にはちょっと申し訳ないんですけど、食材は一緒でも味を変えとか、何かデータを取るとか、皆に聞くなりして、人気のないおかずを少し変えてみるのもいいのではないかと思います。給食費については、やはり払わないで、学校か市が払えばいいのではないかとという人もいます。でも私の周りは特別にそのことについて何か言う人もいないので、給食費が上がることに関しては、多分、意見がある人はいないのではないかと思います。

<委員>

給食費云々については、申し上げる立場にはございませんが、ただ、子供さんの成長過程に合わせて必要な栄養所要量っていうのはあるのではないかと思います。多過ぎてもいかなものかなと思うので、今、残食を無くすというのは大事だと思いますが、パランスのところも御検討いただければいいかなと思います。

<委員>

ほかの市町の給食費がどうなのかっていうのがちょっと気になりました。今、幼稚園

は少し値上がりをしていますけれども、ネットのニュースなどで、それこそ食材費が上がって、それでいろんな献立をやめてしまったとかっていうのを見ると、本当に私はすごく皆さんが努力をしてくださって、なるべく子供たちにといいということで、やっつけてくださって本当にありがたいと思っています。その中で、当園にもアレルギーのお子さんがありますけれども、例えば、単独の園の調理場によっては、例えばいろんなアレルギーの品目の対応をやっつけてくださるとか、学校から配送される幼稚園なんかは、卵についてはやりますけれどもってところで、代替を持ってくることでも、同じ給食費をいただきます。でも、金額というところではないかもしれませんが、例えば、ほかのものも全部卵以外でとなると、何かその子の保護者の方はどういうふうに思っているのかなっていうのをちょっと心配しながら、どうしますかって聞いても、やっぱり給食を食べたいのでということで、そのまま、代替のものを持ってきていただいている状況です。何かそのところが、もう少し磐田市全体で、同じようになってくれるといいなっていうのを日頃から、少し思うところがあります。

<委員>

まず現状をお伝えしますと、昨年度は本校も大変厳しい状況でした。調理師に話を聞いてみると、夏場に野菜等がすごく高騰したと。去年は異常気象だったということですが、ここ数年見ると異常気象というより、今もそうですけども非常に天候不順で野菜はかなり値が上がっているのだろうなっていうのが1点あります。それから、話では国産のものを輸入に変えたりとか、量を減らしたりと、本当に工夫をされているのですが、先日、ハンバーガーが出たときに、ハンバーグがかなり小さくて、パンのサイズとハンバーグのサイズがちょっとアンバランスなところがあって、これハンバーガーだっけってみたいなお話がありました。職員間の中にもハンバーガーって書いてあるのだけど、ちょっと隙間があるよね、みたいなお話が出ました。本当に厳しい中、工夫しているということですね。

もう一つ、先ほど委員から話がありましたが、季節に合った行事のデザート、七夕メニューのときのゼリーであるとか、子供たちも楽しみにしています。今は黙食なのですが、担任が季節について話をする材料にもなるものですから、やはりそういうのが削られてしまうと、給食が栄養を取るだけの味気ないものになってしまうわけですので、そういったところも、給食の役割は大きいなと感じます。保護者の皆さんもその給食の役割だとか、先ほど、挨拶でホームページに給食の様子をアップしていると言いましたけれども、本当に子供たちがいい表情で、もうみんなでピースをしたりとか、にこにこした写真がいつも出ています。それを見ると保護者の皆さんも安心されるし、子供たちが元気に学校に行っていることを見ることができるとうれしそう思うのですね。そういう意味でいうと、やはり多少、給食費が上がっても、多分理解は得られるのではないかと自分はすごく感じていますし、本校は、みんな給食が好きなものですから、そういったところで理解は得られるのではないかといいように思います。

<委員>

栄養を考えて毎日給食を作っている側の苦労というのは、私は十分話を聞いて知っているのですが、給食費を上げるってことは仕方がないというふうに自分は考えます。そしてここにいらっしゃる皆さんもこういう説明を受けてみると、もうこれは仕方がないなって皆さんおっしゃってくださるのですが、ちょっとは別の言い方をしてしまうと、それを知らない保護者の方がぼっと出されたときに、やはり、っていうふうに思われるのではないかと、素直なところなんです。豊岡中ですが、委託米飯になって、給食費が昨年度279円だったのが、本年度320円になっています。それはもうご飯代がついてくるので当然のことと

して、1件も苦情がきませんでした。苦情が来ないように給食について一生懸命PRもしているのですが、仕方がないことなのだけれども、次の年も上がるってなったときに、その説明をしていかないといけないなっていうことを、今お話を聞きながらつくづく感じています。なので、本当に仕方がないことだけど、これだけ努力していても上げざるを得ないという状況を上手に伝えて、子供たちにとって給食がこんなに必要なものなのだというところを、少しずつお伝えしていくことで保護者の方の理解は、得られるかなと思います。それについて、資料に課題と載せていただきましたが、実際に、もう早めに動き出していきたいなというふうに感じています。

<会 長>

先ほど委員からもあった残食を減らすために子供が太ってしまうというところで、去年この会議をやったときに、先生からお話ありましたが、少しその辺りの何か情報とかありますか。

<委 員>

今日ちょうど昨年度お話しさせていただいたお子さんが受診されまして、今日ちょうど学校給食運営会があるのでどうって聞いてみたら、担任の先生変わったっていうこと、また、本人の意識も変わったということで、先ほどお話あったように、食べる子は食べて大きくなるというような状況は無くなったようです。体重に関しては横ばいで推移しているというような感じです。残食率、残食を減らすことは確かに大事ではありますが、一人一人の健康を害するほどの摂取量っていうのは、やっぱりバランス、先生おっしゃったバランスっていうことに関してもやはり大事なかなと思います。きっと1人いるということは、ほかの場所でも起きてるんじゃないかなというふうに考えます。

<会 長>

皆さんのご意見を聞きまして、給食費に対する御理解をいただけているなというふうに感じています。これから先この会議を重ねていきながら、どうしていくかっていうところをまた議論していただきたいと思います。その中でやっぱり、今リアルにお子さんが学校に通っている保護者代表のPTAの方から、学校では野菜を食べて家庭では食べないとかというお話がありました。私の子どもも大きくなってしまったので、なかったのですが、そういうふうやっぱりこう、みんなで食べるっていうのが本当に大事だと思っていました。そのためにはやっぱりこの地場の野菜を食べながら、本当にこの給食費っていうところもお母さんたちにどうやって理解していただけるように情報発信の仕方っていうのを丁寧にしていかなきゃいけないなって、皆さん納得の上で給食費を改定して、しっかりとした給食が磐田市の子供たちに提供できるっていう環境をつくらなきゃいけないなと思っています。1番大事にしていかなきゃいけないのは、保護者への理解に向けた「情報発信」だと、本日は理解しました。そんなことを思っておりますので、よろしく願いいたします。

<会 長>

他にいかがでしょうか。それでは、御質問等、御意見もなさそうなので、打ち切らせていただきます。ここで、事務局の発言を求めます。

<事務局>

ただいま本当に多くの御意見をいただきましてありがとうございました。皆様からい

ただきました御意見も参考にして、今後の協議の中で資料にも生かしていきたいと思
いますし、より具体的な協議をお願いできるように努めていきたいと思
いますので、今年
1年間引き続きよろしくお願
いします。

<会 長>

ありがとうございます。議題の審議につきましては、以上で終了いたしました。ご協
力ありがとうございました。

※審議の結果、議案第1号は承認、報告第1号は了承された。
以上、議事終了。

(8) その他

今後の学校給食運営委員会について事務局より説明

※以上をもって委員会は終了